

# あさひなの米づくり情報

## 「環境保全米」栽培

除草剤「バサグラン粒剤・液剤」の使用時期が間もなく終了します。(移植後55日まで) 散布を検討されている方はお早めに！  
※イネ科雑草には効果がありません。

### ◎水管理

水深3~4cmを目安に管理し、分けつの促進を図りましょう。また、除草剤の効果を持続させるため、水が無くなりそうになったらゆっくり給水し、田面を露出させない管理をしましょう。

間もなく散布時期です！

### ◎稲体強化資材の散布 (散布量 20~40kg/10a)

6月下旬~7月上旬に「畑のカルシウム」や「とれ太郎」等を散布しましょう。

※稲体を健全に保つことにより以下のような効果が期待できます！

- ①いもち病予防 ②食味向上 ③冷害による不稔の軽減 ④倒伏防止 等



### ◎追肥 ※下記を上限に今後の気象経過を見ながら加減して下さい。

「あさひな特別栽培専用肥料(10-10-10)」又は「有機入り化成046号」を使用して下さい。葉色は淡い傾向にありますが、今後の土壌窒素の発現状況を見ながら追肥を行いましょう。

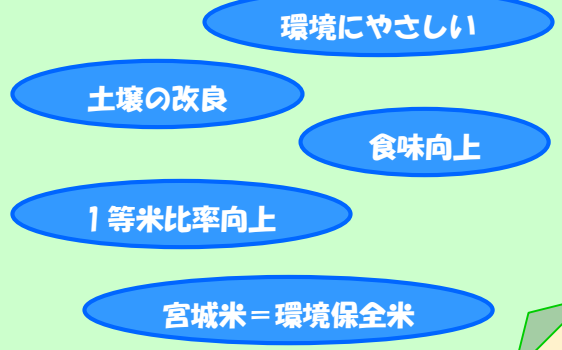
「あさひな特別栽培専用肥料」「有機入り化成046号」**現物**施用量目安(10a当たり)

品 種	幼穂形成期 (出穂 25 日前)	減数分裂期 (出穂 15 日前)	※有機入り肥料は 10 日早めに散布しましょう！  (例：幼穂形成期が 7 月 10 日の場合、追肥は 10 日前の 6 月 30 日に実施する。)
ササニシキ・コシヒカリ	—	10kg	
ひとめぼれ	10kg	10kg	
まなむすめ・つや姫	20kg	—	

※ まなむすめ・つや姫は茎数が少ない品種です。1 穂当たりの着粒数を増やし収量を確保するため、幼穂形成期に 20kg が標準施用量となります。

### ◎「郷の有機」や「有機入り肥料」の施用による利点

葉色の急激な上昇・低下がなく、ジワジワと肥効が発現するため、極端に葉色が落ちることがありません。よって、病害に対する抵抗力が安定し、異常気象(高温・低温)等にも強い稲が育ちます。また、茎数の増減も緩やかで、有効茎歩合が高い傾向にあります。出穂後も一定の葉色を保つことにより窒素供給が順調に行われ良好な登熟にも期待ができます。



### ☆中干し・溝切り

○有効茎(m<sup>2</sup>当たり 400~500 本程度)を確保したら、溝切りとあわせて実施しましょう。

※茎数 500 本を数える際の目安

坪当株数	m <sup>2</sup> 当株数	1 株当茎数
70 株植え	21.2 株	23 本
60 株植え	18.2 株	27 本
50 株植え	15.2 株	33 本
40 株植え	12.1 株	41 本

○中干しは、田面に軽くひびが入る程度とし、遅くとも出穂 30 日前頃までには終わらせるようにしましょう。(期間は 7~10 日間)

○中干し後は、走り水などで徐々に湛水状態に慣らします。一度に水を入れると急激に還元状態となって根を傷めるので注意しましょう。

### ☆管内生育状況(6/11 調査 ひとめぼれ)

平年比で草丈(100.7%)・m<sup>2</sup>当茎数(154.3%)・葉色(96.6%)。気温が5月に引続き平年より高く推移したため、生育は平年並み~やや進んでおります。

### ☆東北地方の天気予報 **平年と同様に曇りや雨の日が多い**

区 分	期 間	項 目	各 階 級 の 確 率		
			低い 30%	平年並 30%	高い 40%
1 か月予報	6/16~ 7/15	平均気温	低い 30%	平年並 30%	高い 40%
		降水量	少ない 40%	平年並 30%	多い 30%
		日照時間	少ない 30%	平年並 30%	多い 40%

### ☆発生予報第4号(6/8)宮城県病害虫防除所発行 抜粋)

病 害 虫 名	発 生 時 期	発 生 量
葉 い も ち	平年並み(7月1日~5日)	平 年 並 み
イネドロオイムシ	平年並み(6月21日~25日頃)	や や 少 ない

### ☆残苗(いもち病発生源)の処分はお済みですか？

補植用残苗はいもち病菌の増殖の原因！土中に埋めるか焼却処分する。

伝 染 伝 染

残 苗 → 葉いもち → 穂いもち (いもち病菌の元を断つ、増殖を防ぐ！)

早期処分

箱処理をされていない方や直播栽培は葉いもち予防粒剤を散布しましょう